



Japanese Congress
for Infrastructure Management

Fact Book

2019-2020

インフラメンテナンス国民会議
ファクトブック



インフラメンテナンス国民会議

インフラメンテナンス国民会議とは

インフラは豊かな国民生活、社会基盤を支える基盤です。老朽化するインフラが急増するなかで、施設管理者は限られた予算のなかで対応しなければなりません。そのため、インフラメンテナンスを効率的、効果的に行う体制を確保する必要があります。

また、豊かな国民生活を送る上でインフラメンテナンスは国民一人ひとりにとって重要なものです。

そこで、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、インフラメンテナンスの理念の普及、課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に寄与することを目的に平成28年11月に「インフラメンテナンス国民会議」は設立しました。

インフラメンテナンス国民会議の目的

- ① 革新的技術の発掘と社会実装
- ② 企業等の連携の促進
- ③ 地方自治体への支援
- ④ インフラメンテナンスの理念の普及
- ⑤ インフラメンテナンスへの市民参画の推進



インフラメンテナンス国民会議について … 01

沿革	01
活動の拡がり	02
推進体制	03

主要な活動 … 06

令和元年度 インフラメンテナンス国民会議総会	07
社会インフラテック2019	08
インフラメンテナンス大賞表彰式	10
インフラメンテナンスのグッドプラクティス	11
第3回インフラメンテナンス大賞受賞者一覧	12

広報部会の活動 … 13

令和元年度こども霞が関見学デー	13
第1回交流会	13

公認フォーラム(中央フォーラム) … 14

革新的技術フォーラム	14
自治体支援フォーラム	15
技術者育成フォーラム	16
市民参画フォーラム	17
海外市場展開フォーラム	18

公認フォーラム(地方フォーラム) … 19

北海道フォーラム	20
東北フォーラム	22
関東地方フォーラム	23
北陸インフラメンテナンスフォーラム	24
中部フォーラム	25
近畿 本部フォーラム	27
「ちゅうごく」(中国フォーラム)	30
四国 地方フォーラム	31
九州フォーラム	32
沖縄フォーラム	34

インフラメンテナンス国民会議について

沿革

平成24年	7月25日	国土交通大臣から社会資本整備審議会会長及び交通政策審議会会長あて「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」の諮問
	7月31日	第9回社会資本整備審議会・交通政策審議会技術分科会技術部会(以下 技術部会)・社会資本メンテナンス戦略小委員会の設置
	12月2日	中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故
平成25年		「社会資本メンテナンス元年」として位置付け
	1月21日	社会資本の老朽化対策会議 設置
	1月30日	社会資本メンテナンス戦略小委員会緊急提言 「本格的なメンテナンス時代に向けたインフラ政策の総合的な充実～キックオフ「メンテナンス政策元年」～」(大臣への手交)
	3月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「社会資本の維持管理・更新について当面講ずべき措置」決定
	5月30日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」中間答申(大臣への手交)
	10月4日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 設置
	11月29日	インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議 ・「インフラ長寿命化基本計画」決定
	12月25日	「今後の社会資本の維持管理・更新のあり方について」答申
平成26年	5月21日	社会資本の老朽化対策会議 ・「国土交通省インフラ長寿命化計画(行動計画)」決定
平成27年	2月27日	技術部会「社会資本のメンテナンス情報に関わる3つのミッションとその推進方策」提言 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置 等提言
	6月30日	「日本再興戦略改訂2015-未来への投資・生産性革命-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立 位置付け
	11月27日～ 12月16日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第1回)の実施 ・約80の企業・団体から意見をヒアリング
平成28年	4月15日～ 4月27日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた意見交換会(第2回)の実施 ・国民会議の青写真をもとに約70の企業・団体と意見交換
	6月2日	「日本再興戦略2016-第4次産業革命に向けて-」閣議決定 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設置 位置付け
	7月29日	政務官勉強会提言 ・「インフラメンテナンスの加速化」提言 ・インフラメンテナンス国民会議(仮称)の創設 位置付け
	6月2日～ 9月29日	インフラメンテナンス国民会議(仮称)の設立に向けた準備会の実施 ・国民会議の運営に参加したい企業・団体と、具体的な組織や実施事項について検討開始 ・各種部会、フォーラム準備会により、検討内容、進め方等について議論(延べ11回開催)
	11月28日	インフラメンテナンス国民会議設立
	7月24日	平成29年度インフラメンテナンス国民会議総会(第1回インフラメンテナンス大賞表彰式と同日開催)
平成30年	4月	全国10地域で地方フォーラムが設立
	8月9日	第2回インフラメンテナンス大賞表彰式
	12月6日	平成30年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2018開会式と同日開催)
令和元年	11月7日	第3回インフラメンテナンス大賞表彰式開催
	12月4日	令和元年度インフラメンテナンス国民会議総会(社会インフラテック2019ステージにて開催)

活動の拡がり

会員は、国民会議の趣旨に賛同して十分な意欲を持って活動に参画していただける企業、団体、行政機関(国を除く)又は個人による正会員とし、正会員については、入会の手続きを経て会員の資格を取得することとしています。

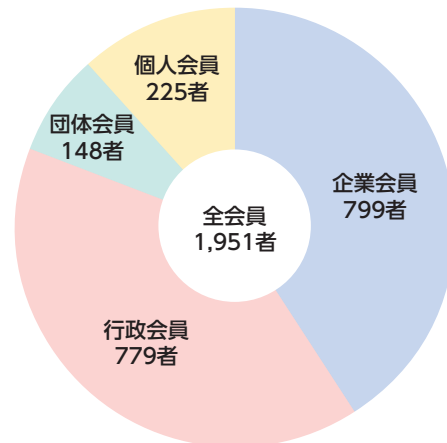
そのほか、国民会議運営のために会員の推薦によりご入会いただく特別会員や、活動以外の形態により国民会議に協力をいただく賛助会員があります。

参加会員内訳(R2.3.13)

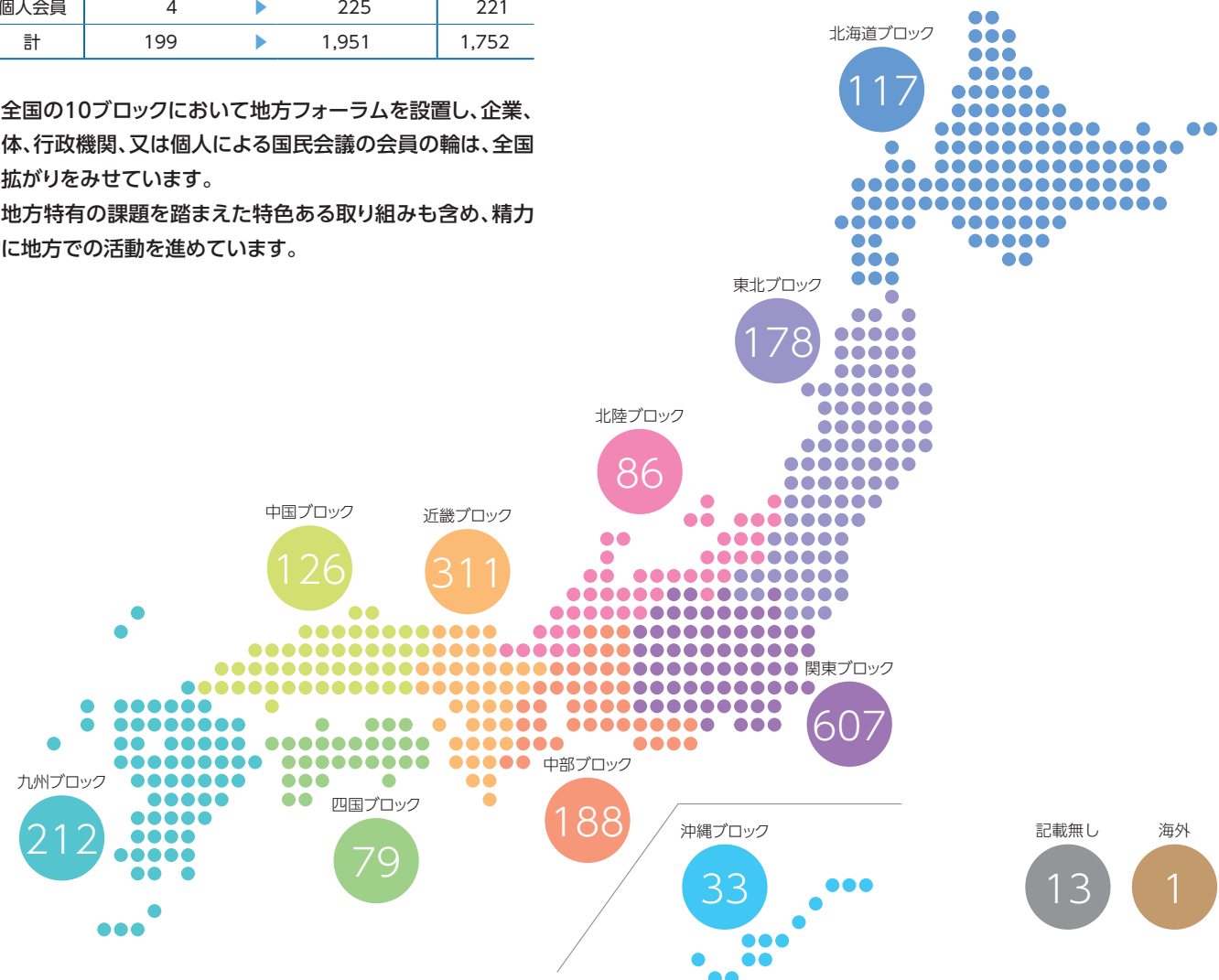
会員種別	設立時(H28.11.28)	現在(R2.3.13)	増加数
企業会員	95	799	704
行政会員	73	779	706
団体会員	27	148	121
個人会員	4	225	221
計	199	1,951	1,752

全国の10ブロックにおいて地方フォーラムを設置し、企業、団体、行政機関、又は個人による国民会議の会員の輪は、全国へ拡がりをみせています。

地方特有の課題を踏まえた特色ある取り組みも含め、精力的に地方での活動を進めています。



会員内訳(R2.3.13)



地方ブロック毎 会員数内訳

会員種別	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	海外	記載無し	合計
企業会員数(本社ベース)	50	70	319	45	68	98	48	30	58	12	1	0	799
行政会員数	58	68	137	25	95	160	55	38	127	16	0	0	779
団体会員数(連絡先ベース)	2	19	64	9	10	17	6	6	11	4	0	0	148
個人会員数(連絡先ベース)	7	21	87	7	15	36	17	5	16	1	0	13	225
合計	117	178	607	86	188	311	126	79	212	33	1	13	1,951

推進体制

国民会議の活動については、国民会議の趣旨に賛同し活動に意欲のある企業、研究機関、施設管理者、市民団体等の会員にメリットのある活動を会員の主体的な運営により行うこととし、会員により構成される実行委員会、各部会、各フォーラム企画委員会を設け、運営を行います。

総会

国民会議 会員(令和2年3月13日時点)
1,951者(企業799、行政779、団体148、個人225)

会長



富山 和彦
株式会社経営共創基盤
代表取締役CEO

副会長



家田 仁
政策研究大学院大学 教授

実行委員会 国民会議全体の運営

実行委員

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 阿部 雅人
(株)ピーエムシー | 島田 孝司
(株)富士交通・道路データサービス |
| 岩佐 宏一
(公財)ファミリーマネジメント協会 | 鈴木 泉
(株)ガイアート |
| 大石 健二
パシフィックコンサルタンツ(株) | 高橋 千里
(同)スマートウォーター |
| 大島 邦彦
(株)熊谷組 | 高山 保
バイオニア(株) |
| 大堀 正人
(株)日立ソリューションズ | 田子 裕子
大日本印刷(株) |
| 片岡 信之
(一社)国土政策研究会 | 田村 裕美
(一社)ソーシアルテクニカ |
| 川口 康介
日本製鉄(株) | 羽鳥 徹
富士ゼロックス(株) |
| 熊倉 信行
東芝インフラシステムズ(株) | 皆川 勝
東京都市大学 |
| 小林 大
大日本コンサルタント(株) | 吉田 典明
日本工営(株) |
| 笹谷 達也
日鉄高炉セメント(株) | |

公認フ

革新的技術 フォーラム	自治体支援 フォーラム	技術者育成 フォーラム	市民参画 フォーラム	海外市場展開 フォーラム
オープンイノベーションによる異業種の連携や技術の融合、マッチング	自治体の課題解決、自治体のニーズ・民間企業等のノウハウの情報交換	地域における技術者育成の活動を支援	インフラやメンテナンスへの関わりを深めるための実践活動を展開	海外への情報発信や海外展開案件形成
■リーダー 藤田 士郎 国土交通省 ■企画委員 岩佐 宏一 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 大堀 正人 (株)日立ソリューションズ 高山 保 バイオニア(株) 羽鳥 徹 富士ゼロックス(株) 笹谷 達也 日鉄高炉セメント(株) 秋本 雅司 (株)島津製作所 中元 政人 能美防災(株) 熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株) 杉崎 光一 (株)ピーエムシー 小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ(株) 瀬崎 真一 (株)日立製作所 横山 敦史 (株)日立製作所 菅野 智行 (株)日立製作所 松岡 禎典 国土交通省 鴨打 浩一 国土交通省	■リーダー 藤田 士郎 国土交通省 ■企画委員 岩佐 宏一 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 大島 邦彦 (株)熊谷組 片岡 信之 (一社)国土政策研究会 太田 勉 (株)富士交通・道路データサービス 熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株) 鈴木 泉 (株)ガイアート 高橋 千里 (同)スマートウォーター 高山 保 バイオニア(株) 吉田 典明 日本工営(株) 小長井 彰祐 国土交通省 五十嵐 俊一 国土交通省 鴨打 浩一 国土交通省 本庄 謙太 国土交通省	■リーダー 鈴木 泉 (株)ガイアート ■企画委員 渡邊 大介 (株)ガイアート 岩佐 宏一 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 足立 忠郎 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 小長井 彰祐 国土交通省 松岡 禎典 国土交通省 吉武 竜馬 国土交通省 鴨打 浩一 国土交通省 本庄 謙太 国土交通省	■リーダー 岩佐 宏一 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 ■企画委員 有岡 正樹 シビルNPO連携プラットフォーム 世古 一穂 NPO研修・情報センター 鈴木 泉 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 皆川 勝 東京都市大学 小林 大 大日本コンサルタント(株) 駒田 智久 土木学会シビルNPO推進小委員会 比奈地 信雄 土木学会シビルNPO推進小委員会 三井 元子 あらかわ学会 足立 忠郎 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会	■企画委員 川村 謙一 国土交通省 中村 祐司 (株)アイ・エス・エスグループ 古澤 靖久 あずさ監査法人(KPMG) 香川 将美 インテックスコンサルティング 大島 邦彦 (株)熊谷組 橋詰 健 建設プロジェクト運営方式協議会 中川 均 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 川村 正夫 (公財)日本ファミリーマネジメント協会 小沼 恵太郎 パシフィックコンサルタンツ(株) 内藤 誠司 パシフィックコンサルタンツ(株) 君島 誠司 (株)フジタ 永瀬 恭一 (株)フジタ

インフラメンテナンス国民会議について

推進体制

企画部会 インフラメンテナンスに関する企画等

■部会長 藤田 士郎 国土交通省	■部会委員 阿部 雅人 (株)ピーエムシー 大石 健二 パシフィックコンサルタンツ(株) 大島 邦彦 (株)熊谷組 熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株) 小林 大 大日本コンサルタント(株) 島田 孝司 (株)富士通交通・道路データサービス 鈴木 泉 (株)ガイアート	高橋 千里 (同)スマートウォーター 高山 保 パイオニア(株) 田村 裕美 (一社)ソーシャルテクニカ 小長井 彰祐 国土交通省 五十嵐 俊一 国土交通省 鴨打 浩一 国土交通省 本庄 謙太 国土交通省
■幹事 箱田 厚 国土交通省 吉田 典明 日本工営(株)		

広報部会 インフラメンテナンスの理念普及、国民会議の広報

■部会長 小林 大 大日本コンサルタント(株)	■部会委員 横山 隼佑 日本工営(株) 永田 善裕 リノブリッジ(株) 土田 智 (株)福山コンサルタント 那珂 通 ニチレキ(株)	高橋 至 国土交通省 鴨打 浩一 国土交通省 本庄 謙太 国土交通省
■幹事 田子 裕子 大日本印刷(株)		

オーラム

地方フォーラム (詳細は次ページ参照)

① 北海道 フォーラム	② 東北 フォーラム	③ 関東地方 フォーラム	④ 北陸インフラ メンテナンス フォーラム	⑤ 中部 フォーラム
⑥ 近畿本部 フォーラム	⑦ 「ちゅうごく」 (中国フォーラム)	⑧ 四国地方 フォーラム	⑨ 九州 フォーラム	⑩ 沖縄 フォーラム

国(国土交通省および関係省庁)

地方フォーラム

①北海道フォーラム

- リーダー**
横田 弘 北海道大学大学院工学研究院
- 企画委員長**
栗田 悟 (一社)北海道建設業協会
- 企画委員**
岡本 淳敏 勇建設(株)
北見 美敏 伊藤組土建(株)
河村 巧 岩田地崎建設(株)
小野 雅晴 (株)エスイーシー
横山 隆 (株)開発工営社
池田 憲二 (株)構研エンジニアリング
伊藤 捨雄 コンクリート・鋼構造物超耐久化工法研究会
中里 修二 サンエスホールディングスグループ
工藤 理恵子 積水ハウス(株)
佐々木 雅史 (株)ダイヤコンサルタント
深見 純 (株)ディーネットジャパン
向井 直樹 (株)ドーコン
阿部 幸康 (株)土木技術コンサルタント
大石 学 (株)中山組
高橋 守人 西江建設(株)
小山 教 西松建設(株)
市川 浩 ニチレキ(株)
沼田 寛 (株)ノース技研
青野 純一 北電総合設計(株)
高宮 則夫 (株)北海道技術コンサルタント
南 真樹 (株)南組
- オブザーバー**
大堀 正人 (株)日立ソリューションズ
高橋 千里 (同)スマートウォーター

②東北フォーラム

- リーダー**
石川 雅美 東北学院大学
- 企画委員**
遠藤 敏雄 (株)復建技術コンサルタント
小野 泰太郎 (株)小野建築研究所
白田 総一郎 (株)小野工業所
阿部 裕彰 鹿島建設(株)
新銀 武 (株)中央コーポレーション
赤羽 修 ニチレキ(株)
山口 恒太 パシフィックコンサルタンツ(株)
林 昭宏 (株)フジタ
- オブザーバー**
阿部 雅人 (株)ビーエムシー
島田 孝司 (株)富士交通・道路データサービス
大石 健二 パシフィックコンサルタンツ(株)
高橋 千里 (同)スマートウォーター

③関東地方フォーラム

- リーダー**
村越 潤 東京都立大学
- 企画委員**
平野 圭 (株)クリエート
柳澤 正和 (株)赤城商会
高瀬 和男 オムロン・ソリューションズ(株)
江藤 靖彦 前田建設工業(株)
五十嵐 則夫 (株)フジタ
鈴木 健彦 八千代エンジニアリング(株)
高馬 克治 ニチレキ(株)
高橋 千里 (同)スマートウォーター
小林 大 大日本コンサルタント(株)
穴谷 康広 富士通(株)
戸村 智憲 日本マネジメント総合研究所(同)
黒木 幹 (株)福山コンサルタント
春山 俊仁 (株)福山コンサルタント
木下 史朗 木下建工(株)
徳増 恒 東急建設(株)
若木 和雄 日進工業(株)
- オブザーバー**
高山 保 パイオニア(株)
田子 裕子 大日本印刷(株)
羽鳥 徹 富士ゼロックス(株)

④北陸インフラメンテナンスフォーラム

- リーダー**
丸山 久一 長岡技術科学大学

- 企画委員**
嶋田 浩一 (株)熊谷組
川島 明 ニチレキ(株)
若尾 明弘 エヌシーイー(株)
湯川 雅昭 三和ボーリング(株)
木下 史朗 木下建工(株)
小林 徹 株式会社レックス
田村 康裕 開発技建(株)
渡邊 浩匡 西松建設(株)
初鹿 明 大日本コンサルタント
笹谷 輝彦 (株)国土開発センター
浦田 孔二 (株)日本海コンサルタント
- オブザーバー**
大島 邦彦 (株)熊谷組
鈴木 泉 (株)ガイアート
熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株)

⑤中部フォーラム

- リーダー**
原田 樹 玉野総合コンサルタント(株)
- 企画委員**
細江 育男 大日コンサルタント(株)
安藤 誠 (株)オリエンタルコンサルタンツ
安立 寛 (株)オリエンタルコンサルタンツ
那須 聖志郎 大日コンサルタント(株)
野々村 敏博 大日コンサルタント(株)
榮 義彦 玉野総合コンサルタント(株)
鈴木 正樹 中央コンサルタンツ(株)
東山 泰治 中央コンサルタンツ(株)
中村 浩二 戸田建設(株)
渡邊 豊 ニチレキ(株)
神田 伸行 ニチレキ(株)
吉田 典明 日本工営(株)
橋爪 信昭 (株)フジヤマ
海野 剛司 (株)フジヤマ
青島 健 (株)フジヤマ
水津 紀陽 八千代エンジニアリング(株)
中川 義守 八千代エンジニアリング(株)
森 雅俊 ホームメックス(株)
- オブザーバー**
吉田 典明 日本工営(株)
川口 康介 日本製鉄(株)

⑥近畿本部フォーラム

- リーダー**
片岡 信之 (一社)国土政策研究会
- 企画委員**
霜上 民夫 (一社)国土政策研究会
山内 幸裕 (一社)国土政策研究会
宮原 正和 (一社)国土政策研究会
田中 敏治 (一社)国土政策研究会
東 定生 (一社)国土政策研究会
福岡 成和 (一社)国土政策研究会
河野 千代 (一社)国土政策研究会
板倉 信一郎 (一社)国土政策研究会
佐藤 正典 (一社)国土政策研究会
新田 耕司 (一社)国土政策研究会
井上 裕司 (一社)国土政策研究会
楠本 博 (一社)国土政策研究会
中川 芳計 (一社)国土政策研究会
坂本 宏 (一社)国土政策研究会
中垣 亮二 (一社)国土政策研究会
横山 照正 (一社)国土政策研究会
坂野 昌弘 関西大学
- オブザーバー**
羽鳥 徹 富士ゼロックス(株)

⑦「ちゅうごく」(中国フォーラム)

- リーダー**
藤井 堅 広島大学
- 企画委員**
藤井 友行 復建調査設計(株)
中山 東太 (株)ウッドプラスチェックテクノロジー
岩村 誠治 (株)営善
井手 義勝 大林道路(株)
狩屋 雅之 岡山県立岡山工業高等学校
若本 康弘 (株)ガイアート
前土井 寛之 格正建設(株)

- 紀 淳 (株)熊谷組
秋田 英次 山陽ロード工業(株)
高野 輝浩 NPO法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会
高橋 千里 (同)スマートウォーター
廣田 和道 戸田建設(株)
井上 智章 ニチレキ(株)
若木 和雄 日進工業(株)
奥村 享作 (株)フジタ
清水 祐介 富士通(株)
天満 真士 復建調査設計(株)
丹羽 健介 (株)Roop's
- オブザーバー**
鈴木 泉 (株)ガイアート
島田 孝司 (株)富士交通・道路データサービス

⑧四国地方フォーラム

- リーダー**
矢田部 龍一 愛媛大学
- 企画委員**
庵原 伸二 (一社)四国クリエート協会
山崎 秀幸 (株)四電技術コンサルタント
福田 茂 四国建設コンサルタント(株)
大野 二郎 (株)芙蓉コンサルタント
楠本 雅博 (株)第一コンサルタンツ
松下 征司 ニチレキ(株)
木下 修一 徳島県
尾幡 季之 香川県
白石 昌史 愛媛県
窪田 佳史 高知県
- オブザーバー**
大島 邦彦 (株)熊谷組
笹谷 達也 日鉄高炉セメント(株)
島田 孝司 (株)富士交通・道路データサービス

⑨九州フォーラム

- リーダー**
日野 伸一 大分工業高等専門学校
- 企画委員**
園田 佳巨 九州大学
松田 浩 長崎大学
大塚 久哲 (株)大塚社会基盤総合研究所
赤星 文生 (一社)九州地域づくり協会
福島 宏治 (一社)建設コンサルタンツ協会
濱村 哲之進 アース建設コンサルタント(株)
岩 慎二郎 (株)麻生
牧角 龍憲 (一社)NME研究所
花岡 信一 前田建設工業(株)
永田 武久 戸田建設(株)
小野寺 陵太郎 ニチレキ(株)
野上 和彦 (株)福山コンサルタント
園田 康行 (一社)日本建設業連合会
山川 武春 大日本コンサルタント(株)
川神 雅秀 (同)防災構造工学研究所
渡邊 泰幸 西松建設(株)
高山 淳一 (一社)リベア会
片山 英資 (一社)ツタワルドボク
上村 英基 応用地質(株)
田頭 正臣 宮地エンジニアリング(株)
- オブザーバー**
島田 孝司 (株)富士交通・道路データサービス
熊倉 信行 東芝インフラシステムズ(株)
笹谷 達也 日鉄高炉セメント(株)

⑩沖縄フォーラム

- リーダー**
有住 康則 琉球大学
- 企画委員**
下里 哲弘 琉球大学
神村 美州 (一社)沖縄県測量建設コンサルタンツ協会
轟 彰雄 西日本高速道路(株)
金城 博 (一社)沖縄しまたて協会
伊集 朝徳 (一社)日本道路建設業協会 沖縄支部
金城 学 沖縄県
新里 匠 (公財)沖縄県建設技術センター
- オブザーバー**
岩佐 宏一 (公社)日本ファシリティマネジメント
田村 裕美 (一社)ソーシャルテクニカ

インフラメンテナンス国民会議について

05

推進体制

活動概要



主要な活動

令和元年度 インフラメンテナンス国民会議総会

インフラメンテナンス国民会議は、我が国の全てのインフラメンテナンスの円滑な実施を目標とし、それを支援するために必要な産学官民のプラットフォームを運営するとともに、インフラメンテナンスの円滑な実現に向け必要な事業を行っています。



▲ 山田邦博氏



▲ 吉田典明氏

会長挨拶

私達の生命・生活に直結するインフラをどのように管理していくか — この極めて重要な国民的課題に、今、向き合う必要がある。



富山和彦
インフラメンテナンス国民会議 会長

2012年12月の中央自動車道笹子トンネル天井崩落事故が発生した当時、私は中日本高速の監査役をしており、その時にいろいろな思いを持ったことが、私がインフラメンテナンス国民会議の会長をお受けしている大きな動機になりました。

そして、2019年は台風15号により関東地方で大規模な停電が起きました。停電の発生原因は多々ありますが、樹木が風で倒れたことがひとつ大きな原因になったと考えられます。これは、単に樹木が古くなったというだけでなく、あれほど強い風が吹く台風がこれまで関東に来ていなかったために、古い樹木が残っていたということです。インフラメンテナンスはこういった気象条件の変化など、いろいろな要因を含めて考えていかなければいけないということを痛感しました。また、台風19号では、東北でバスの営業所が完全に水没しました。災害の後には、公共交通網が寸断されていたので、一日も早いバスの復旧は人々の生活において極めて重要な問題でした。この時は、何とか数日のうちに復旧に至りましたが、改めてインフラの重要性というのが日本の全国民に理解されたところかと思えます。

我が国のインフラは老朽化が進む一方で、厳しい財政状況や人手不足という問題に直面しています。そのような難しい条件の中で、国民の生活・生命・健康と直結するインフラをどのように管理していく

べきかという問題は、極めて重要な国民的課題の一つであると言えます。インフラメンテナンス国民会議では、この課題に対して、官民が力を合わせ解決に取り組んでいます。2016年11月に設置されて以来、当初は199名の会員でしたが、今では10倍近い1,853名が会員となり、全国10ブロックで地方フォーラムが立ち上がるなど確実にその裾野が広がっております。

多くのインフラを抱える地方自治体においては、予算や技術者不足などの制約がある中、どのように予防保全を進めていくかが課題となります。

一方、デジタル革命で、様々な新しい技術が開発されており、この新たな技術を取り入れることで、インフラメンテナンスのトータルコストを縮減していくことも必要です。このような先進的な取り組みは、他地域へもどんどん展開し、分かりやすく言うところ“バクって”が大事です。上手くやっている地域の良い点を“バクって”いくということ、この領域に関してはどんどんやって頂ければと思っております。

2019年は特に自治体支援に重点を置いた活動をしてまいりましたが、多様な主体が集まるフラットな国民会議が今後益々実りある活動となるように、この総会に出席されている皆様の積極的な参画を期待します。

日 時 2019年12月4日(水) 13:00~13:30

場 所 東京ビックサイト 南1・2ホール カンファレンスステージ

プログラム 祝辞：山田邦博(国土交通省 技監)
会長挨拶：富山和彦(インフラメンテナンス国民会議 会長)
活動報告：吉田典明(インフラメンテナンス国民会議 実行委員)

《社会インフラテック2019》スペシャルセッション 「本音のインフラメンテナンス～体制・組織・人のあり方」

我が国の社会資本ストックは高度経済成長期に集中的に整備され、今後急速に老朽化が進行することが懸念されており、インフラのメンテナンスは国だけではなく、インフラの多くを管理している地方自治体を含めた、我が国全体の大きな問題となっています。地方では予算の制約や技術者不足などから、社会保障や教育、災害対応等が優先され、インフラメンテナンスへの対応が後回しになる例もあります。人口減少や財政逼迫などから、古いインフラの統合や廃棄も考えられる中、インフラメンテナンスのあり方を大胆に見直し、省力化・効率化に資する民間の技術や知恵を活用することが求められています。本セッションでは、国、地方自治体、企業経営者、インフラメンテナンス国民会議実行委員をパネリストに招き、「本音のインフラメンテナンス～体制・組織・人のあり方」をテーマに、健全なインフラメンテナンス産業の創出、官民連携によるインフラの維持管理・老朽化対策などについて探りました。



▲ スペシャルセッションの様子



▲ 家田仁氏



▲ 宮池克人氏



▲ 木下義昭氏



▲ 森戸義貴氏



▲ 熊倉信行氏

日 時	2019年12月4日(水) 14:00～15:00
場 所	東京ビックサイト 南1・2ホール カンファレンスステージ
出 演 者	<p>〈コーディネーター〉</p> <p>家田 仁(政策研究大学院大学 教授)</p> <p>〈パネリスト〉</p> <p>宮池 克人(中日本高速道路 代表取締役社長CEO)</p> <p>木下 義昭(玉名市役所 建設部 土木課 橋梁メンテナンス係長)</p> <p>森戸 義貴(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長)</p> <p>熊倉 信行(東芝インフラシステムズ 社会システム事業部 参事)</p>

インフラメンテナンス大賞

インフラメンテナンス大賞とは、日本国内のインフラのメンテナンスに係る優れた取り組みや技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに係る事業者、団体、研究者の取り組みを促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図るため実施するものです。



▲ 赤羽国土交通大臣による祝辞



▲ 国土交通大臣賞表彰式の様子①



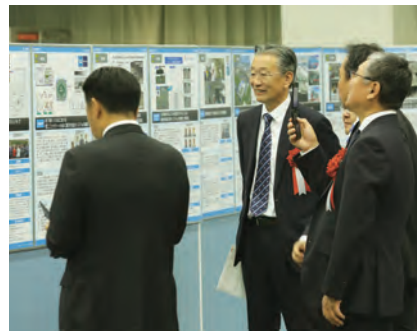
▲ 国土交通大臣賞表彰式の様子②



▲ 山極壽一氏



▲ 家田仁氏



▲ 場内に展示されたパネルを見る受賞者

日 時 2019年11月7日(木) 14:00~16:00

場 所 中央合同庁舎3号館 10階 共用会議室A

次 第

- 国土交通大臣挨拶
- 受賞者表彰(32団体)
- インフラメンテナンス大賞選考委員会委員長講評
- インフラメンテナンス国民会議副会長からのメッセージ
- 第4回インフラメンテナンス大賞説明

出 席 者 約250名

インフラメンテナンス大賞選考委員会 委員長
山極壽一(京都大学 総長/日本学術会議 会長)
インフラメンテナンス国民会議 副会長
家田 仁(政策研究大学院大学 教授)
(主務省庁代表)
赤羽 一嘉(国土交通大臣)
奈良 俊哉(総務省 政務官 [代理:大臣官房総括審議官])
笠原 隆(文部科学省 政務官
[代理:大臣官房文教施設企画・防災部技術参事官])
浅沼 一成(厚生労働省 政務官
[代理:医薬・生活衛生局 生活衛生・食品安全審議官])
河野 義博(農林水産省 政務官)
(受賞者・関係者)
都道府県 政令市: 約10名
関係省庁: 約60名
大賞受賞者: 約110名
受賞者関係者: 約40名
国民会議会員: 約10名
マスコミ: 約20名

《社会インフラテック2019》 「インフラメンテナンスのグッドプラクティス」

本プログラムは、インフラメンテナンスに取り組む各団体の優れた技術について広く情報発信することで、類似の課題を抱える方々への一助とすることを目的とし開催しました。この度の講演では、第3回インフラメンテナンス大賞において、国土交通大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞を受賞された方々より技術の概要や開発過程における工夫などについてご紹介いただきました。



▲ 会場の様子



▲ 冨井直弥氏



▲ 野田数氏



▲ 中村光氏



▲ 打越聡氏



▲ 五藤幸弘氏



▲ 嘉嶋崇志氏

日 時 2019年12月5日(木) 13:00~14:30

場 所 東京ビックサイト 南1・2ホール カンファレンスステージ

- 登壇者**
- 情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞
「合成開口レーダ衛星によるインフラ変位モニタリング」
冨井 直弥(宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 衛星利用運用センター 技術領域主幹)
 - 厚生労働大臣賞
「時間積分式漏水発見器による効率的な漏水発見手法(スクリーニング工法)」
野田 数(東京水道サービス 代表取締役社長)
 - 文部科学大臣賞
「大学研修施設(大規模実橋モデル)を活用した『臨床型』の橋梁維持管理技術者育成」
中村 光(国立大学法人 名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻 教授)
 - 国土交通大臣賞
「下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術」
打越 聡(コボタ パイプシステム事業ユニット 管路ソリューション部 技術グループ長)
 - 総務大臣賞
「電柱点検の効率化に向けた構造劣化判定技術の実用化」
五藤 幸弘(日本電信電話 アクセスサービスシステム研究所 アクセス運用プロジェクト点検診断グループ 研究主任)
 - 国土交通大臣賞
「保線におけるIoT技術の実用化とメンテナンスへの応用」
嘉嶋 崇志(東日本旅客鉄道 東京支社施設部 保線課 保線課長)

第3回インフラメンテナンス大賞受賞者

省	No.	表彰の種類	部門*	分野	受賞者(代表企業・団体名)	受賞案件名	
総務省	1	総務大臣賞	ウ	情報通信	日本電信電話(株)アクセスサービスシステム研究所アクセス運用プロジェクト	電柱点検の効率化に向けた構造劣化判定技術の実用化	
	2	情報通信技術の優れた活用に関する総務大臣賞	ウ	河川・ダム・砂防・海岸	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	合成開口レーダ衛星によるインフラ変位モニタリング	
	3	優秀賞	ウ	情報通信	東日本電信電話(株)ネットワーク事業推進本部高度化推進部アクセス開発部門	電源断ONUの識別技術～反射減衰量の違いによる末端環境の識別～	
文部科学省	1	文部科学大臣賞	イ	文教施設等	名古屋大学大学院 工学研究科土木工学専攻 橋梁長寿命化推進室	大学研修施設(大規模実橋モデル)を活用した「臨床型」の橋梁維持管理技術者育成	
厚生労働省	1	厚生労働大臣賞	ア	水道	東京水道サービス(株)	時間積分式漏水発見器による効率的な漏水発見手法(スクリーニング工法)	
	2	優秀賞	ウ	水道	東亜グラウト工業(株)	アイスピグ管内洗浄工法(氷で管内を洗浄する技術)	
農林水産省	1	農林水産大臣賞	イ	農業農村	えな土地改良区	手造り公共事業	
	2		ウ	水産基盤等	静岡県・一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所・五洋建設(株)	漁港の砂堆積と砂浜侵食を同時に保全するジェットポンプ式サンドパイパスシステム	
	3	特別賞	ア	林野	徳島県神山町建設課	お遍路さんに配慮した、林道焼山寺名ヶ平線におけるおもてなし(維持管理)活動	
	4	優秀賞	イ	水産基盤等	環境ボランティアサークル亀の子隊	西の浜はゴミ箱じゃない!～良好な海浜・海岸を守るための活動	
	5		イ	水産基盤等	横島漁業協同組合	漁協自らによりPB保留施設の整備・運営をし、漁港の水域施設の機能を支える取組	
	6		イ	林野	JX石油開発(株)中条油業所	森林保全ボランティア「JX中条の森づくり活動」	
	7		イ	農業農村	滋賀県土地改良事業団体連合会	農業水利施設の長寿命化を推進するための「アセットマネジメントセンター」の取組	
	8		ウ	林野	長野県林務部森林づくり推進課	木材を活用した治山工法「階段式木工沈床」の開発	
	9		ウ	農業農村	早川ゴム(株)	パイプライン内面バンド工法「サンタックINジョイント」による既設管きよの長寿命化	
10	ウ		農業農村	早川ゴム(株)	パイプライン内面バンド工法「サンタックINジョイント」による既設管きよの長寿命化		
国土交通省	1	国土交通大臣賞	ア	鉄道	東日本旅客鉄道(株)ほか	保線におけるIoT技術の実用化とメンテナンスへの応用	
	2		ウ	下水道	(株)クボタ	下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術	
	3	特別賞	ア	鉄道	東海旅客鉄道(株)	車上受信データおよび地上電界強度データ解析によるLCX予防保全手法の確立	
	4		イ	道路	中標津建設業協会	中標津町「明日に架ける橋」プロジェクトで地域の橋を総点検!	
	5		ウ	鉄道	東京地下鉄(株)	地下鉄トンネルにおける覆工コンクリートのはく離浮き抽出システムの構築	
	6		ウ	港湾・海岸	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所	吸い出し・陥没リスク抑制と港湾構造物の長寿命化に向けたケーソン目地透過波低減法	
	7		ウ	自動車道	福田道路(株)	汎用機材およびAI診断モデルによる舗装損傷診断システムの開発と実用化	
	8		優秀賞	ア	道路	玉名市役所土木課 橋梁メンテナンス係 木下義昭	橋梁補修DIY(市職員が自ら行う橋梁補修)
	9			ア	下水道	豊橋市上下水道局	バイオマス資源利活用施設整備・運営事業
	10	ア		港湾・海岸	釧路港国際バルク戦略港湾施設整備検討会	国際バルク戦略港湾における官民共同による効率的な維持管理の取組	
	11	イ		道路	寿建設(株)	プロカメラマン撮影のインフラメンテナンス現場写真による広報活動	
	12	イ		河川・ダム・砂防・海岸	近畿河川技術伝承会	堤防等河川管理施設の点検・評価等に関する技術者の育成	
	13	イ		公園	国営明石海峡公園事務所ほか	大都市近郊の里地里山文化を保全・継承する国営明石海峡公園の創出・維持管理	
	14	ウ		道路	JFE商事テールワン(株)	テールアルメFS(フェイルセーフ機能付テールアルメ)	
	15	ウ		鉄道	JFE商事テールワン(株)	レール交換システム(REXS)の開発	
	16	ウ		港湾・海岸	いであ(株)技術開発室	水中3Dスキャナーを活用した水中可視化技術	
防衛省	1	優秀賞	ア	自衛隊施設	コンボルト・ジャパン(株)	厳しい自然環境に適したコンボルト型屋外燃料タンクの設置について	

*凡例 ア/メンテナンス実施現場における工夫部門 イ/メンテナンスを支える活動部門 ウ/技術開発部門

広報部会の活動

令和元年子ども霞が関見学デー

「子供霞が関見学デー」とは、国土交通省をはじめとした府省庁等が連携して業務説明や省内見学などを行うことにより、親子の触れ合いを深め、子ども達が夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取組です。インフラメンテナンス国民会議は、見学デーのプログラムとして体験型のブースを設け、子ども達や保護者の皆様に対してメンテナンスの啓発を図りました。国民会議の会員である「アイセイ株式会社」「特殊高所技術株式会社」の協力のもと、インフラメンテナンスの重要性を紙芝居で説明したのち、ドローンの操作体験やVRを用いた高所での点検作業の疑似体験を行っていただきました。2日間にわたり、多くの皆様を楽しみながらメンテナンスへの理解を深めていただきました。

日 時 2019年8月7日(水)～8日(木) 10:00～16:00

場 所 中央合同庁舎3号館 10階共用会議室

参 加 者 約250名(2日間合計体験参加者数)

プログラム

- 体験型プログラム
- 「小型ドローン操縦+インフラメンテナンスクイズショー!」
- ▶飛行型ドローンを実際に操縦し、インフラメンテナンスに関連するオリジナルカードの釣り上げ体験を実施。【アイセイ(株)】
- 「バーチャル特殊高所作業体験」
- ▶特殊高所装備を装着して仮設槽に懸垂し、VRゴーグルをおとして高所からの景観を体験し、「子ども特殊高所技術者証」を授与。【特殊高所技術(株)】



▲ VRグラスを使った特殊高所作業体験



▲ メンテナンスの紙芝居を集中して聞く子ども達



▲ 小型ドローン操縦体験

第1回交流会

これは聞きたい!あの先生達の白熱議論!!! ~我々メンテナンス技術者の進む道~

インフラメンテナンス国民会議では、目指すインフラメンテナンスの姿や、各会員が国民会議で実現したい内容の共有を図るための「交流会」を開催しています。会員の交流のきっかけを作り、国民会議活動の促進・活性化の一助とすることを目的に「令和元年度第1回交流会」を開催しました。パネルディスカッションでは、技術革新によるインフラメンテナンス業界の中で求められる技術者像や人材育成、自治体における新技術導入に必要な支援などについて白熱した議論が繰り広げられ、その余韻は歓談会に引き継がれ、参加者の積極的な交流が見受けられました。

日 時 2019年11月18日(月) 15:00～18:30

場 所 東京都市大学 二子玉川夢キャンパス

参 加 者 約40名(インフラメンテナンス国民会議会員)

プログラム

- 国民会議取組紹介
- パネルディスカッション
- インフラメンテナンスは、技術革新によりどこがどのように変わっていくのか、そのとき求められる技術者像、能力や経験とは?」
- 「新しい技術を地方自治体が使えようになるまでに必要なこと・支援」
- 「先輩技術者を教師として創られたAIがインフラメンテナンスに実装されたとき、後輩技術者はどのように技術を習得していくのか?」
- (コーディネーター)
- 山田 健太郎(名古屋大学名誉教授)
- (パネリスト)
- 六郷 恵哲(岐阜大学名誉教授)
- 全 邦釘(東京大学 大学院工学系研究科 総合研究機構 特任准教授)
- 植野 芳彦(富山市 建設技術総括監)
- 高木 千太郎(首都高速道路技術センター 上席研究員)
- 中澤 治郎(パシフィックコンサルタンツ(株)交通基盤事業本部 インフラマネジメント部 橋梁保全室)
- 小林 大(大日本コンサルタント(株)新フラ技術研究所調査研究部保全エンジニアリング研究室)



▲ パネルディスカッションの様子

公認フォーラム

革新的技術フォーラム

産・学で保有している革新的技術の社会実装を加速させるべく、会員が有する技術・サービスを技術マップに整理することで、自治体ニーズとシーズのマッチングの活性化を支援しています。また、重点テーマを選び、ニーズ解決型のセミナー、ピッチイベント等を企画するとともに、現場試行や実証実験などの官民連携等を生み出しています。今後は、地方フォーラムで開催されるピッチイベントなど、活動の技術サポートを行うべく、これらの取組を深化させていく予定です。

シンポジウム「インフラメンテナンスにおけるAI活用」

革新的技術フォーラムと土木学会の構造工学委員会「構造工学でのAI活用に関する研究小委員会」が共催でシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、インフラメンテナンスにおけるAI導入状況の最新動向や関連技術を紹介し、今後のメンテナンスへのさらなる利活用・技術革新や研究開発ビジョンについて講演・ディスカッションが行われました。最先端の取り組みの解説に続いて、自治体や民間の取り組みの紹介が行われ、今後のAIのあり方について、超満員のフロアを含めて熱心に議論が進められました。

日 時	2019年11月20日(水) 13:00～17:00
場 所	土木学会講堂
参 加 者	約150名(国民会議会員、土木学会員、非会員含む)
プログラム	<p>■第1部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演① 「土木研究所における橋梁点検ロボットとAI導入の取組について」 ・ 基調講演② 「自治体業務におけるAI活用可能性と留意点」 ・ 基調講演③ 「AI/深層学習を損傷・異常検知に使用するには～方法論の整理と適用事例」 ・ 基調講演④ 「インフラメンテナンスでAI技術を活用するためには～土木技術者に求められるものとは」 <p>■第2部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国民会議活動報告(全国のニーズ紹介) ・ 自治体の実装事例紹介(東京都品川区) ・ 技術紹介(3社) <p>■第3部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネルディスカッション 「今後求められる研究開発は何か?」



▲ シンポジウム開催状況

自治体支援フォーラム

自治体支援フォーラムは、インフラの多くを管理する自治体の支援を目的として、行政会員の持つ課題・ニーズ、好事例などの情報共有を行うとともに、包括的民間委託、技術者派遣などの制度・体制に関する全国的テーマについてのノウハウの情報交換等を行うフォーラムを継続的に開催しています。2019年度は特に各地方の情報共有を図ることに重点を置き、12月に開催された社会インフラテック2019(日経新聞社・国民会議共催)に併せて、地方フォーラムメンバー及び地方自治体職員が参加するプログラムを開催しました。

自治体支援フォーラム 地方フォーラム取組紹介

2018年度までに全国10のブロックで地方フォーラムが立ち上がり、国民会議の活動は全国へ広がっています。自治体支援フォーラムは、各地方フォーラムの取組が地方事情に合わせて多様化し、より充実したものとなることで自治体の支援につながることを期待して、先行している4つの地方フォーラムから好事例の紹介をいただきました。地方フォーラム間の交流を図り、課題を共有し解決策を共に探る体制が整うよう支援を行っていきます。

- 日 時** 2019年12月4日(水) 11:00~12:00
- 場 所** 東京ビックサイト 南1・2ホール カンファレンスステージ
- 参 加 者** 約180名
- プログラム**
 - 中部フォーラム「官民連携の仕組みの導入に向けた検討」
安藤 誠(オリエンタルコンサルタンツ 中部支店構造部次長)
 - 近畿本部フォーラム「官民マッチング事例」
板倉 信一郎(一般社団法人 国土政策研究会)
 - ちゅうごくフォーラム「市民との協働事例」
狩屋 雅之(岡山県立岡山工業高等学校 進路課土木科 教諭)
 - 九州フォーラム「フォーラム活性化の取り組み事例」
福島 宏治(福山コンサルタント 代表取締役社長)



▲ フォーラムの様子



▲ 安藤誠氏

▲ 板倉信一郎氏

▲ 狩屋雅之氏

▲ 福島宏治氏

自治体支援フォーラム 行政会員によるパネルディスカッション

地方自治体がメンテナンスに関して抱える課題の共有を図り、各自治体の課題解決に至る好事例を共有することを目的に、行政会員によるパネルディスカッションを開催しました。「国民会議の好事例から得る今後のメンテナンス」をメインテーマに、地方自治体の職員が直面している現場の生の声で活発な意見交換が行われました。

- 日 時** 2019年12月5日(木) 10:10~12:00
- 場 所** 東京ビックサイト 南1・2ホール カンファレンスステージ
- 参 加 者** 約180名
- プログラム**
 - ディスカッション
 - ・「メンテナンス分野の新技术実装を進めるためには何をどうすればいいか」
 - ・「自治体における今後のメンテナンスはどのように進めていくべきか」
- 出 演 者** (パネリスト)
 - 多並 知広(東京都品川区 防災まちづくり部道路課課長)
 - 増田 慎一郎(静岡県 交通基盤部建設支援局 建設技術企画課課長代理)
 - 大前 貴広(奈良県十津川村 建設課主幹)
 - 藤井 優(鳥取県 県土整備部技術企画課参事)
 - 相原 博紀(愛媛県 土木部土木管理課技術企画室システム管理係係長)
 - 渡部 祐介(熊本県長洲町 建設課係長)
 - 玉城 喜章氏((一社)沖縄しまたて協会 技術環境研究所 技術環境室室長補佐)
 (コーディネーター)
 - 藤田 士郎(国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 事業総括調整官)

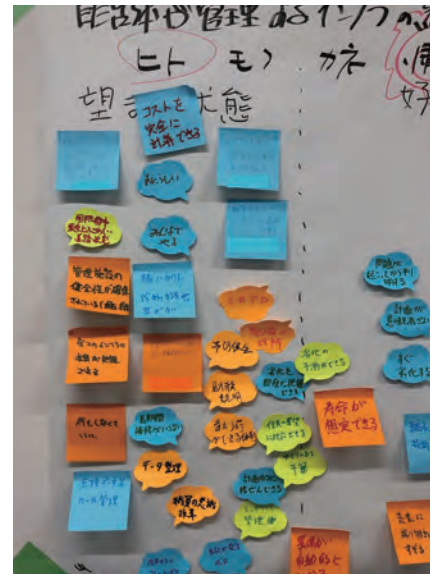


▲ パネルディスカッションの様子

自治体支援フォーラム 自治体職員の意見交換会

自治体の施設管理者の方々が、インフラの維持管理における現状の課題や対策・対応について、本音の共有及び交流を深めてもらうことを目的に開催しました。施設管理者自身が考える望ましいインフラの状態を発言することで、現状の課題(理想の逆)を間接的に引き出すワークショップを行い、本音の共有を図ることができました。様々な発言からインフラメンテナンス国民会議に望むことを拾い上げ、今後の活動の企画に繋げることで今まで以上に自治体に寄り添った活動を行っていきます。

日 時	2019年12月5日(木) 13:30~16:00
場 所	東京ビックサイト(社会インフラテック2019会場内)
参 加 者	21名(自治体職員14名、国民会議実行委員7名)
プログラム	<p>■意見交換テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自治体が管理するインフラの維持管理における現状の課題や対策・対応について」 ・「自治体間の情報共有とその中で国民会議に望むこと」



▲意見交換会ワークショップ

技術者育成フォーラム

包括民間委託、技術者派遣等の新たな民間ノウハウを活用する手法において、担い手側に求められる企業連携やマネジメント体制の確立に向け、地域の担い手側に求められる役割や技術の方向性を模索するシンポジウムを地方フォーラムと連携して開催し、インフラメンテナンスの課題解決の具体方策として求められる技術者の役割や資格・制度の枠組み等について検討を進め、試行・実装を目指して活動しています。また、地方フォーラムでのインフラメンテナンス時代のリーダーの育成を目指す先進的な取り組みをスパイラル支援していきます。

伊島小学校通学路の高校生による道路パトロール活動

地方フォーラム国民会議「ちゅうごく」での先進的な取り組み(工業高校生による岡山道路パトロール隊)を企画から支援をしています。道路パトロール隊は、学習の中で市民参加型の社会インフラ維持活動のリーダーとして地域の維持・発展を牽引する人材を養成することを目的としています。「道路パトロール体験会」を開催することで、通学路を利用する児童の保護者、地域の市民と一緒に、インフラメンテナンスの大切さと、あらためて道路の役割・機能について理解を深める機会として、市民協働による地域活動の新たなスタートとなることを期待します。

日 時	2020年度実施予定
場 所	岡山県立岡山工業高等学校、伊島小学校の通学路
参 加 者	地域市民、高校生、市役所、警察署、国民会議会員
プログラム	<p>■実施プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路道路パトロール体験会の目的説明 ・各班での道路パトロールの実施(岡山市伊島小学校通学路) ・道路パトロール結果の発表(ワークショップ)

市民参画フォーラム

インフラメンテナンスへの市民参画の具体的な活動に対する支援の在り方について模索を行ってきました。インフラメンテナンスにおける市民参画の具体事例について事例収集を行うとともに、フォーラムメンバーと地域の取組の関係者のネットワーク構築を進め、フォーラムメンバーのスキル向上に取り組みました。今後、優れた取組の収集と全国展開に努めるとともに、インフラメンテナンスへの市民参画の推進に向け、地域等における具体的な支援の実践に展開していきます。

2019サイエンスアゴラ ブース出展

インフラを永く使用するためには、与えられたインフラから、自分たちのインフラへと視点の転換が必要となります。その思いを少しでも狭めるために橋梁維持管理カードや橋梁管理者すごろくゲームを作成し、ゲーム感覚で身近にあるインフラやメンテナンスの必要性を伝えることができました。カードには点検の方法や損傷種類、市民と共に活動をしている団体の紹介を記載し、すごろくゲームでは身近にある橋を紹介しました。小学生から大人まで多くの方が体験から学んだイベントとなりました。

日時 2019年11月16日(土)～17日(日) 10:00～16:30

場所 東京テレコムセンター

参加者 142名

プログラム ■実施プログラム

- ・橋梁維持管理カードゲーム
- ・橋梁管理者すごろくゲーム
- ・インフラメンテナンス国民会議等の紹介動画
- ・健全コンクリートと劣化コンクリートの供試体を展示



▲ ブース全体



▲ 橋梁維持管理カードゲーム



▲ 橋梁管理者すごろくゲーム

小学校出前授業

授業のねらいを、「生活の中でインフラに興味をもち、自分たちでできることを考え行動できる子供を育てる」とし、小学校出前授業を開催しました。1時間目はインフラを知ること、インフラがなくなったらをグループワークで学び、2時間目は劣化したコンクリートと健全なコンクリートを比較することでメンテナンスの必要性を学びました。終わりに自分たちでできることについて話し合い、インフラを大切にする。落書きをしない。ゴミを拾うといった発言が出されました。地方フォーラムでの開催いかがでしょうか。

日時 2020年2月6日(木)、13日(木) 45分授業2コマ × 2クラス

場所 都内公立小学校

参加者 約70名(5年生)

プログラム ■実施プログラム

- ・インフラとは(グループワーク)
- ・インフラがなくなったら(グループワーク)
- ・インフラのメンテナンスとは
- ・健全コンクリートと劣化コンクリートの供試体の打音検査の体験
- ・自分たちでできること(グループワーク)



▲ 小学校出前授業

海外市場展開フォーラム

メンテナンス分野の海外プロジェクトに関連する官民連携の促進や、国内外のメンテナンスに関する製品・技術・知見を有する産官学の関係者による「プラットフォーム」の構築により、メンテナンス分野における我が国企業の海外展開を図る取組を行っています。

インドネシアインフラメンテナンスセミナー

インドネシアでは道路・橋梁などのインフラの老朽化が進んでおり、メンテナンスに課題を抱えています。インフラメンテナンスの課題解決に資する観点から、インフラメンテナンスに係る日本政府の取り組みと日本企業の技術・サービスをインドネシア側関係者にご紹介するとともに、インドネシアにおけるインフラメンテナンス事業への参画・協働に向けて、インドネシア政府・現地企業と日本企業とのネットワーク構築をサポートする目的でセミナーを開催しました。

日 時 2020年2月13日(木) 13:30~16:45

場 所 アヤナ・ミッドプラザ・ジャカルタ

参 加 者 約90名

プログラム ■実施プログラム

- ・挨拶
- ・インフラメンテナンスの重要性と効果、日本のインフラメンテナンス関連施策の紹介等
- ・フォーラム会員企業の技術・サービスの紹介
- ・インドネシア側関係者とのネットワーキング



▲ プレゼンテーションの様子



▲ 関係者によるフォトセッション



▲ ネットワーキングの様子

活動概要



公認フォーラム(地方フォーラム)

公認フォーラム(地方フォーラム)

北海道フォーラム

2018年3月23日に設立し、北海道内の地方公共団体が管理する土木施設・公共施設の適切なメンテナンスを継続していくため、産学官民の技術や知恵を総動員するプラットフォームとして、活動しています。



リーダー ● 横田 弘
北海道大学大学院工学研究院 教授

01

新たなノウハウを活用した 地方のインフラ・アセットマネジメントを考える(釧路)

公共施設の適切なメンテナンスを継続するため、インフラアセットマネジメントの知見を深めるとともに、新たなノウハウやインフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムの取組みを周知し、課題解決に向けた機運を高めます。

日 時

2019年7月31日(水) 14:00~17:00

場 所

釧路地方合同庁舎

参 加 者

約90名

プログラム

- 講演
 - ① 社会インフラ維持管理の課題とマネジメント
 - ② モバイルプロフィロメータによる路面点検
 - ③ 釧路開発建設部におけるインフラメンテナンスの取り組み
- グループディスカッション
 - ▶ 北海道、釧路市の施設管理担当者と北海道フォーラムメンバーが、インフラメンテナンスに関して、日常の課題や新技術の導入について意見交換を実施。



▲ フォーラムリーダーによる基調講演の様子



▲ 自治体職員とのグループディスカッションの様子



▲ シンポジウム聴講の様子(遠望)

02

新たなノウハウを活用した 地方のインフラ・アセットマネジメントを考える(稚内)

公共施設の適切なメンテナンスを継続するため、インフラアセットマネジメントの知見を深めるとともに、新たなノウハウやインフラメンテナンス国民会議北海道フォーラムの取組みを周知し、課題解決に向けた機運を高めます。

日 時

2019年8月29日(木) 14:00~17:00

場 所

宗谷地方合同庁舎

参 加 者

約80名

プログラム

- 講演
 - ① 社会インフラ維持管理の課題とマネジメント
 - ② モバイルプロフィロメータによる路面点検
 - ③ 釧路開発建設部における道路インフラメンテナンスの取り組み
- グループディスカッション
 - ▶ 北海道、稚内市の施設管理担当者と北海道フォーラムメンバーが、インフラメンテナンスに関して、日常の課題や新技術の導入について意見交換を実施。



▲ 自治体職員とのグループディスカッションの様子



▲ 北海道フォーラム企画委員長の挨拶



▲ 北見工業大学 富山准教授の講演の様子

03

暮らしを支える地域の水インフラメンテナンス

上下水道は日常の生活に欠かすことが出来ない重要なインフラであり、その多くが地方自治体によって経営される事業となっています。今後、ストックの老朽化が進行するなか、水インフラの現状を確認するとともに、メンテナンスを推進するシステムやノウハウの導入検討の契機を創ります。

日 時

2019年11月25日(月) 13:00~17:30

場 所

北海道大学 学術交流会館

参 加 者

約160名

プログラム

■基調講演

- ・社会インフラ維持管理の課題とマネジメント
- ・中小下水道の現状と未来

■話題提供

- ・最近の水道行政の動向について
- ・北海道における下水道事業の取り組み
- ・地域自律管理型水インフラとその支援体制

■プレゼンテーション

(インフラメンテナンス大賞受賞技術紹介)

- ・既設経年管を再利用したステンレス・フレキ管による水道管路の更新・耐震化の新工法
- ・伸縮可とう管の変位状況を簡単に検知できる専用の計測装置で、管路の安全管理に貢献
- ・不断水で設置可能な継手部補強金具による既設管の地震対策
- ・下水道管路等の閉鎖性空間点検調査用ドローンに係る開発
- ・ヒートライナー工法(小口径下水道管路を補修しながら熱を利用する技術)



▲ 大賞受賞企業によるブース出展の様子



▲ フォーラムリーダーによる基調講演の様子



▲ 北海道立総合研究機構 牛島主査の講演の様子

東北フォーラム

東北フォーラムは、インフラを良好な状態で持続的に活用することを目指し、2018年4月27日に設立されました。産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、活動しております。2019年度は、自治体支援策と企業が所有する技術などをご紹介するマッチングイベントを仙台、青森、秋田で開催いたしました。



リーダー ● 石川 雅美
東北学院大学工学部 教授

01

マッチングイベント in 仙台

宮城県・山形県の自治体会員が抱えるインフラに関する課題解決のために、行政会員からのニーズ(課題)紹介、企業会員からの技術やノウハウ等の提案とのマッチングイベントを仙台市で開催しました。また、フォーラムリーダーの東北学院大学工学部石川教授から「コンクリート補修の考え方」について技術紹介もありました。今後は、このイベントを機に、社会資本の維持管理に関し住民や利用者とのつながりを強め、高い関心が得られるよう、提案技術の実装やマッチング方策について検討を図ります。

日 時

2019年6月25日(火) 14:00~17:00

場 所

東北地方整備局13階 水災害予報センター

参 加 者

約70名(行政会員、団体会員、企業会員等)

プログラム

- 挨拶
石川 雅美(東北学院大学 教授、フォーラムリーダー)
- 東北フォーラムについて
- マッチングイベント
 - ①「土木構造物・建物の点検」
 - ②「維持管理」
- 技術紹介
 - ①「コンクリート補修の考え方について」
 - ②「機械設備点検補修工事に関する考察」
 - ③「ワイヤレスひずみモニタリングシステムについて」
- その他
「復旧・復興事業の東北地方整備局の取り組み」



▲ フォーラムリーダー挨拶の様子



▲ ニーズ(課題)紹介の様子



▲ シーズ説明の様子

02

マッチングイベント in 青森

青森県の自治体会員が抱えるインフラに関する課題解決のために、行政会員からのニーズ(課題)紹介、企業会員からの技術やノウハウ等の提案とのマッチングイベントを青森市で開催しました。また、八戸工業大学土木建築工学科阿波教授による『「青い森の橋ネットワーク」の活動概要～地域の産官学連携～』の講演もありました。今後は、このイベントを機に、社会資本の維持管理に関し住民や利用者とのつながりを強め、高い関心が得られるよう、提案技術の実装やマッチング方策について検討を図ります。

日 時

2019年7月29日(月) 14:00~17:00

場 所

ラ・プラス青い森 2F「カメラア」の間

参 加 者

約70名(行政会員、団体会員、企業会員等)

プログラム

- 挨拶
石川 雅美(東北学院大学 教授、フォーラムリーダー)
- インフラメンテナンス国民会議について
- 東北フォーラムについて
- マッチングイベント
 - ①点検の効率化
 - ②コンクリート補修
 - ③建物の劣化状況把握
- 講演
『「青い森の橋ネットワーク」の活動概要～地域の産官学連携～』
阿波 稔(八戸工業大学 土木建築工学科 教授)



▲ マッチングイベントの様子



▲ ニーズ(課題)紹介の様子



▲ 講演の様子

03

マッチングイベント in秋田

秋田県の自治体会員が抱えるインフラに関する課題解決のために、行政会員からのニーズ(課題)紹介、企業会員からの技術やノウハウ等の提案とのマッチングイベントを秋田市で開催しました。また、秋田大学大学院理工学研究科理工学部徳重教授による「コンクリートへのボラン材料の有効利用例」の講演もありました。今後は、このイベントを機に、社会資本の維持管理に関し住民や利用者とのつながりを強め、高い関心が得られるよう、提案技術の実装やマッチング方策について検討を図ります。

- 日時** 2019年8月22日(木) 14:00~17:00
- 場所** 秋田市役所3階 多目的ホール
- 参加者** 約80名(行政会員、団体会員、企業会員等)
- プログラム**

- 挨拶
 - 石川 雅美(東北学院大学 教授、フォーラムリーダー)
- インフラメンテナンス国民会議について
- 東北フォーラムについて
- 情報提供と意見交換
 - ①「建物の改修について」
 - ②「建物の維持管理について」
- 講演
 - 「コンクリートへのボラン材料の有効利用例」
 - 徳重 英信(秋田大学大学院 理工学研究科 理工学部 教授)



▲ ニーズ(課題)紹介の様子



▲ シーズ説明の様子



▲ 講演の様子

関東地方フォーラム

インフラメンテナンスに関する地方公共団体及び産業等の育成・活性化を支援し、インフラメンテナンス国民会議の取り組みを地方レベルで推進させることを目的として、関東地方フォーラムを2018年3月29日に設立しました。



リーダー ● 村越 潤
東京大学大学院 教授

第3回関東地方フォーラムイベント

公共事業に関する効率的、効果的な維持管理を実現すべく、先進的な取り組みを行っている自治体や他地方フォーラムについて、取り組み内容や効果、課題等の発表を通じて、各自治体への情報共有。また、講演やパネルディスカッションを通じて、インフラ施設の効率的な維持管理における産学官民連携による技術活用のメリット等について自治体の参考とすることを目的として「インフラメンテナンス先行事例の共有と課題解決にむけて」と題して、フォーラムイベントを開催を企画しました。2/27に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮して、延期としました。

- 日時** 2020年2月27日(上記により延期)
- 場所** さいたま新都心合同庁舎2号館14F 災害対策本部室(上記により延期)
- 参加者** 自治体:24団体 43名 その他参加者:7名 合計50名(上記により延期)
- プログラム**

- 〈フォーラムイベント 予定プログラム〉
- 講演・地方フォーラムの取組に向けて
- 先行事例の紹介・ICTを活用した協働のまちづくりについて(ちばレボ)
 - ・道路点検における最新技術の実装について
- パネルディスカッション・社会インフラの維持管理の課題解決に向けて
 - ※上記により開催は延期
- 〈上記実施に向けた地方自治体や他フォーラムの先進的な取組事例についての情報収集等〉
 - ・府中市 2019年12月17日 「施設(道路)の包括的な管理について」
 - ・品川区 2019年12月23日 「道路点検における最新技術の実装について」
 - ・千葉市 2019年12月24日 「ICTを活用した協働のまちづくり(ちばレボ)について」
 - ・中部地方フォーラム 2020年1月30日 「中部地方フォーラムの取り組み」

インフラメンテナンス国民会議関東地方フォーラム主催
インフラメンテナンス先行事例の共有と課題解決に向けて

2020年 **2月27日**(木)
14時00分~17時00分

さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室

プログラム	
講演	14時05分~14時25分 : 地方フォーラムの取組に向けて 講師: 中部地方フォーラムリーダー 原田和樹氏 (玉野総合コンサルタント株式会社)
先行事例の紹介	14時35分~15時55分 : ①ICTを活用した協働のまちづくりについて(ちばレボ) 講師: 高野 勉氏 (千葉市役所まちづくり推進課) ②道路点検における最新技術の実装について 講師: 多田 知哉氏 (国土交通省国土院)
パネルディスカッション	16時05分~16時55分 : 「社会インフラの維持管理の課題解決に向けて」 コーディネーター: 村越潤教授 (東京大学) <パネリスト> 原田和樹氏 (玉野総合コンサルタント株式会社) 多田知哉氏 (国土交通省国土院) 水野直志氏 (八千代エン지니어リング株式会社) 伊藤直隆氏 (建設経済株式会社) 高野勉氏 (国土院)
講評	関東地方フォーラムリーダー 村越潤教授 (東京大学)

問い合わせ 関東地方フォーラム 企画委員会事務局 myanagisawa@akuci-kt.co.jp
関東地方整備局企画部企画課 kofay@ktb.tokai-nippon.go.jp

▲ フォーラムイベント(延期)のチラシ

北陸インフラメンテナンスフォーラム

主に自治体が抱える課題に関する知識を深めるとともに人材交流により課題解決を見出すことを目的とし、北陸インフラメンテナンスフォーラムを2018年3月26日に設立しました。

活動にあたっては、産学官民協力して取り組む他、メンテナンス会議など既存組織で取り組んでいる活動と連携し、取り組むものとしております。



リーダー ● 丸山 久一
長岡技術科学大学 名誉教授

01

第3回北陸インフラメンテナンスフォーラム

社会資本ストックは高度経済成長中期に集中的に整備され、今後急速に老朽化することが懸念されており、的確な点検・診断に基づく維持管理・補修が急務となっています。今後、点検と修繕に取り組む次のステージを迎える中で、産官学民のさまざまな主体が参画し、メンテナンスの課題解決及びイノベーションの推進に向けて、第3回北陸インフラメンテナンスフォーラムを開催しました。

日 時	2019年11月26日(火)
場 所	富山河川国道事務所 3階大会議室
参 加 者	78名(国・地方自治体22名、民間企業等52名、大学等機関4名)
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ■開会挨拶 ■第一部：研究協力協定と実証試験の検証状況について ■第二部：質疑・意見交換



▲【開会挨拶】丸山名誉教授



▲【第一部】植野建設技術統括監の講演



▲【第二部】質疑・意見交換

中部フォーラム

中部フォーラムは民間主体の事務局として2018年1月26日に設立し、中部地方の自治体が管理する主として土木インフラについて、メンテナンスサイクルの確実な実施に向けて支援いたします。



リーダー ● 原田 和樹
玉野総合コンサルタント

中部フォーラム第5回会議(建設技術フェアin中部2019)

建設技術フェアin中部2019において、新技術マッチングイベントを開催しました。「鳥害対策」、「飛散防止」に関する現場ニーズについて、前者ではシーズ企業6社、後者ではシーズ企業1社の応募を頂きました。イベントでは、提案内容に対してニーズ提供者からは可能性を探る積極的な質疑が交わされました。シーズ企業の積極的な提案が、今後のニーズ提供者の課題解決につながっていくことを期待したいです。

01

日 時	2019年10月17日(木) 14:00~15:50
場 所	名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール) 第2ファッショ展示場3階
参 加 者	約80名(大学3名、行政5名、民間56名、登壇者16名)

プログラム

- プログラムテーマ
- 「鳥害対策」について
 - ・ ニーズの説明/名古屋高速道路公社
 - ・ シーズのプレゼン1~6(応募企業6社)
 - ・ 意見交換
- 「飛散防止」について
 - ・ ニーズの説明/名古屋高速道路公社
 - ・ シーズのプレゼン1(応募企業1社)
 - ・ 意見交換



▲ 開会挨拶



▲ 会場風景



▲ マッチングイベントの様子

中部フォーラム第6回会議(新技術交流イベントin Shizuoka2019)

新技術交流イベント in Shizuoka2019の静岡県との共催企画において、「インフラメンテナンス時代をサバイブする「公響事業」~求められるメンテナンスセンス~」をテーマに(一社)ツタワールドボク代表理事 片山英資様を迎え、インフラメンテナンスの抱える課題や悩みに対して解決策をご紹介いただき、産学官民が意識を高め連携する大切さと土木の意義と魅力を伝えていただきました。また、会場からも貴重な意見を頂戴し、この分野に対する関心の高さを改めて感じる事ができました。

02

日 時	2019年10月30日(水) 12:00~12:30
場 所	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
参 加 者	約50名

プログラム

- 対談形式によるプレゼンテーション
- ※SLIDOを用いて会場の意見も集約



▲ プレゼンの様子

03

中部フォーラム第7回会議(市民交流イベント～未来にもあたりまえのインフラを!～)

自治体によるインフラメンテナンスの確実な実施に向けて、人材(担い手)不足や財源不足が喫緊の課題とされる中、今後、産官学民が連携し一体となった取り組みが重要となりますが、メンテナンスサイクルの構築に対する「民」への働きかけ、理解が不足しています。そこで、「防災」、「地域づくり」、「メンテナンス」分野でご活躍されている3名のご講演と、Slido(ウェブアプリケーション)による会場からの意見も含めたパネルディスカッションを行い、インフラの重要性やその伝え方、未来のインフラについて議論しました。

日 時

2020年2月12日(水) 12:00～16:10

場 所

東建・丸の内ホール

参 加 者

約150名(行政15名、民間135名)

プログラム

- 第一部：講演 地域の語り部の話を聞こう!
 - ・「名物女将が語る東日本大震災から未来の地域づくり」
岩崎 昭子(宝来館女将)
 - ・「空港型地方創生、南紀白浜エアポートの取り組み」
岡田 信一郎(南紀白浜エアポート代表取締役)
 - ・「交響事業～社会基盤を支える土木の新たな価値とは～」
片山 英資(一般社団法人ツタワルドボク代表理事・会長)
- 第二部：みんなで話そう!「地域でできること、地域からの発信、未来の地域づくり」
コーディネーター：沢田 和秀(岐阜大学教授)
パネリスト：岩崎 昭子、岡田 信一郎、片山 英資



▲ 講演・会場風景



▲ パネルディスカッション風景



▲ Slidoスクリーン表示

近畿 本部フォーラム

2016年12月15日に設立し、2018年1月の第1回フォーラムの開催を皮切りに、2020年3月末までにフォーラム6回開催、ピッチイベントを4回開催しました。さらに、現地見学会を1回、実証実験を7回開催し、これらの延べ参加人数は、施設管理者323名、民間企業等1143名となりました。



リーダー ● 片岡 信之

一般社団法人国土政策研究会関西支部理事

01

実証実験報告会

第5回実証実験(2018年12月7日実施)及び第6回実証実験(2020年2月26日実施)の結果について、報告会を実施しました。

日 時

2019年5月30日(木) 15:30~16:00

場 所

花博記念公園鶴見緑地 花博記念ホール

参 加 者

約300名(近畿管内道路メンテナンス合同会議の参加者の方)

プログラム

- 第5回実証実験
 - ▶求める技術：道路付属物(標識柱等の鋼製支柱)の土中部の点検を支援する技術
 - ▶実証実験実施者：岡山大学・積水化学工業株式会社
 - ▶実証実験：磁気センサを用いた鉄鋼構造物の非破壊検査(腐食減肉検査)
- 第6回実証実験
 - ▶求める技：トンネル等の点検に際し、継続的に整合が取れた点検を可能とする技術
 - ▶実証実験実施者：西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 - ▶実証実験：可視画像撮影及び3次元形状計測システムを搭載した車両によるトンネル履行面調査技術



▲ 報告会の様子

02

第7回フォーラム

第7回フォーラムでは5自治体のニーズ(①路面性状調査技術、②防火水槽の劣化度を確し、長寿命化を図る技術、③伐採後に樹木の再繁茂を抑制する技術、④歩道橋における化粧パネル裏の点検技術、⑤人道吊橋のメインケーブル維持管理技術)についてそれぞれ討論を行いました。各ニーズに対し、民間企業や自治体、ファシリテーターがディスカッションを行い、各自治体が抱える課題に対する解決策の方向性を模索しました。

日時

2019年8月27日(火) 14:00~17:00

場所

近畿地方整備局第1別館3階 304共用会議室

参加者

95名(地方自治体22名、民間企業等47名、国土交通省4名、メンター1名、事務局21名)

プログラム

■プログラム概要

- ・インフラメンテナンス国民会議近畿本部のこれまでの活動
- ・各テーマごとに分かれてディスカッション
- ・統括



▲ 班別討議の様子



▲ まとめの様子

03

第5回ピッチイベント

第5回ピッチイベントでは2019年8月27日に開催した第7回フォーラムで討議したテーマに対し、民間企業が保有するシーズ技術のプレゼンテーションを行いました。テーマは①路面性状調査技術、②防火水槽の劣化度を確し、長寿命化を図る技術、③歩道橋における化粧パネル裏の点検技術、④人道吊橋のメインケーブル維持管理技術。これらの技術の提案を受けて、今後実証実験に繋がっていきたいと考えています。

日時

2019年10月24日(木) 13:30~16:30

場所

建設技術展2019近畿 マイドームおおさか 8階 第3会議室

参加者

132名(地方自治体17名、民間企業等91名、国土交通省9名、メンター1名、事務局14名)

プログラム

■プログラム概要

- ・来賓挨拶(国土交通省 近畿地方整備局 橋本 雅道企画部長)
- ・民間企業によるプレゼンテーション
- ・総評



▲ 会議風景

04

近畿本部フォーラム2019

「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム2019」は、多くの方にインフラメンテナンスについて考えていただくきっかけを作り、産学官民が一丸となってインフラメンテナンスに取り組む社会の実現を目指し、民間企業・団体によるインフラメンテナンスに関する技術の紹介や建機・先進技術のデモンストレーションなどを行う展示会です。併せて、専門家による講演やシンポジウムなども開催しました。

日時

2019年5月30日(木) 10:00~16:30(開場9:30)、31日(金) 9:30~17:00

場所

花博記念公園鶴見緑地 ハナミズキホール・花博記念ホール

参加者

5,362名(1日目 3872名、2日目 1490名)

参加団体

■屋内ブース展示

- ・カンファレンス(セミナー形式)
- ・62ブース、66社(※共同出展社9社含む)による展示・PR

■屋外ブース展示

- ・14ブース、15社(※共同出展社5社含む)による重機の展示及びそれを用いたコンテンツ
- ・ケータリングカーによる飲食スペース ※30日意見交換会

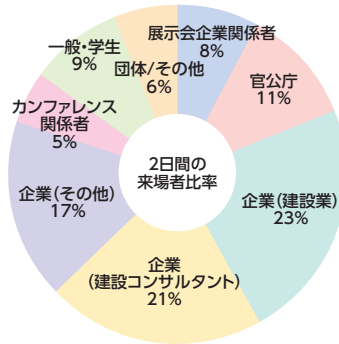


▲ テープカットの様子

2日間の来場者数

来場者属性	来場者数	比率
展示会企業関係者	448人	8%
官公庁	563人	11%
企業(建設業)	1,215人	23%
企業(建設コンサルタント)	1,123人	21%
企業(その他)	909人	17%
カンファレンス関係者	293人	5%
一般・学生	470人	9%
団体/その他	341人	6%
合計	5,362人	

※比率は端数切捨て



出展分野

出展分野	ブース数	比率
保守・監視・点検	22ブース	29%
メンテナンス/補修・補強/更新	36ブース	48%
防災・減災対策	3ブース	4%
環境保全対策	2ブース	3%
先端技術・デバイス/ソーシャルデバイス	2ブース	3%
自動化/リモートコントロール	1ブース	2%
IoT、ビッグデータ、AI活用技術・システム	2ブース	3%
学校	1ブース	2%
団体	7ブース	6%
インフラ投資・運営事業	0ブース	0%
ネットワーク/セキュリティ	0ブース	0%
次世代エネルギーインフラ	0ブース	0%
ダイバーシティ/生活インフラ	0ブース	0%
合計	76ブース	

※比率は端数切捨て

プログラム

■5月30日(木)

開会宣言 10:00~

霜上 民生(実行委員長
一般社団法人国土政策研究会 理事 兼 関西支部長)



来賓挨拶①

岡積 敏雄(国土交通省 大臣官房技術参事官)



来賓挨拶②

黒川 純一良(国土交通省 近畿地方整備局長)



10:30~10:40

「近畿地方整備局のインフラメンテナンスの取組発表」

森戸 義貴(国土交通省 近畿地方整備局 企画部長)



10:40~10:50

「インフラメンテナンス国民会議近畿本部の取組について」

坂野 昌弘(インフラメンテナンス国民会議 近畿本部情報ワーキング長 兼 関西大学 環境都市工学部)



特別講演 11:00~11:30

「これからの関西」

脇 雅史(一般社団法人 国土政策研究会 会長
元[国土交通省 近畿地方整備局長/参議院議員/
自民党参議院議員幹事長])



■5月31日(金)

基調講演① 10:00~11:00

「関西の今後のビッグイベント・プロジェクト」
西村 和芳(公益社団法人 関西経済連合会
交通インフラまちづくり担当部長)



基調講演② 11:30~12:30

「インフラメンテナンス 2nd ステージ
-重要性を増す“診断”の信頼性-」
西川 和廣(国立研究開発法人 土木研究所 理事長)



基調講演③ 13:30~14:30

「国土強靱化に関する最近の動き」
山田 邦博(内閣官房 国土強靱化推進室 次長)



基調講演④ 15:30~16:30

「インフラメンテナンスに関する
国土交通省の取組」

藤田 土郎(国土交通省 総合政策局
公共事業企画調整課 事業総括調整官)



同時開催(5/30(木) 13:00~15:30)

近畿管内道路メンテナンス合同会議

近畿地方整備局管内7府県の道路管理者が結集し、各地で実施されている「道路メンテナンス会議」*の活動内容や点検・修繕等の取組事例等について、情報共有が行われる全国初の合同会議が実施された。基調講演、各府県道路メンテナンス会議活動報告、定期点検・修繕等の事例紹介などが行われた。

*あらゆる道路施設の維持・管理を効率的かつ効果的に遂行するために各道路管理者が連携し、情報の共有や発信を行うことを目的として、2014年度に設置され、各都道府県ごとに開催されている。

「ちゅうごく」(中国フォーラム)

インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」は、インフラという地域の資産を維持するために、行政だけではなく産官学民での連携による持続可能な維持管理や予防保全の取組が重要であるとの観点から確実かつ効率的なインフラメンテナンスの実現を図ることを目的とし、2018年3月27日に設立しました。



リーダー ● 藤井 堅
広島大学 名誉教授

01 第1回実証試験

地方自治体(施設管理者)が抱える施設管理に関する課題(テーマ)に対し、民間事業者が課題解決に繋がる技術等を紹介する実証試験を実施しました。第1回実証試験では、2019年3月4日に開催した第2回ピッチイベントで取り上げたニーズのひとつである「舗装の損傷状況の実態把握」に対し、シーズ技術を有する民間事業者4社が自社製品やサービスの紹介を行った後に、島根県が管理する公道において試験走行を行い、舗装の損傷状況を調査し解析結果を説明しました。

日 時

2019年10月17日(木) 13:00~17:10

場 所

島根県出雲合同庁舎

参 加 者

55名(ニーズ提供者2名、シーズ提供者16名、施設管理者18名、民間企業3名、マスコミ1名、企画委員等15名)

プログラム

- 開会の挨拶
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
- ニーズ提供者の挨拶
池森 徹(島根県土木部技術管理課 管理監)
- 各技術の説明
シーズ提供者 4社
- 各技術の実演(使用機材、走行状況の確認)
- 各技術の解析結果の説明、質疑応答
- ニーズ提供者の感想
池森 徹(島根県土木部技術管理課 管理監)
- 講評
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
- 閉会の挨拶
山田 明(国土交通省中国地方整備局企画部 広域計画課長)



▲開会の様子



▲使用機材の確認の様子



▲解析結果の説明の様子

02 建設技術フォーラム2019in広島 ブース出展

建設技術フォーラムでは「安全・安心で豊かな地域づくりを支える建設技術」をテーマに、中国地方の社会資本整備を支える防災・減災対策、老朽化対策の取り組み、ICTを活用した新技術などについて各団体の展示等が行われ、インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」ではブースを出展し、産学官民の技術や知恵を総動員するインフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」の活動を広報するとともに会員勧誘を行いました。

日 時

2019年11月26日(火) 10:00~16:30
27日(水) 9:30~15:30

場 所

広島産業会館 東展示館

出展団体

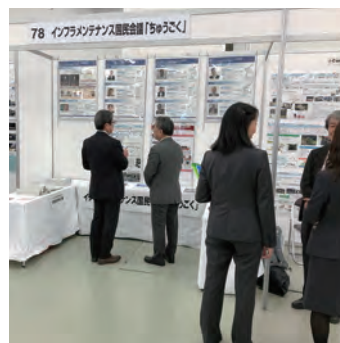
88社

参 加 者

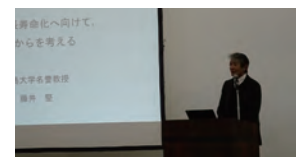
約2,300名(1日目・1,300名、2日目・1,000名)

プログラム

- セミナー発表
基調講演「インフラ長寿命化へ向けて、これからの考える」
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
- 出展企業：88社



▲出展ブースにおける広報及び会員勧誘の様子



▲藤井フォーラムリーダーによる基調講演の様子



▲建設技術フォーラム2019in広島開会式の様子

03

第2回ワークショップ

地方自治体(施設管理者)が抱えるインフラメンテナンスに係るニーズや課題に対し、民間企業のシーズ技術のマッチング等、解決の方向性を模索・検討する場として、ワークショップを実施しました。ワークショップには、施設管理者と様々な業種の企業等が参加し、「橋梁点検の効率化」や「プラスチック貯留材等を活用した仮設盛土の代替工法」等のテーマ毎に「施設管理者の課題説明」や「企業等による技術の紹介」「課題解決策の提案」等について、活発なグループ討議が行われました。

- 日時** 2020年1月29日(水) 14:00~16:30
- 場所** 広島合同庁舎付属棟 海技試験場
- 参加者** 59名(内訳:施設管理者6名、民間企業等18名、傍聴者(施設管理者)5名、傍聴者(民間企業等)8名、企画委員等22名)
- プログラム**
 - 開会の挨拶
藤井 堅(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」フォーラムリーダー)
 - ワークショップの概要説明
藤井 友行(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」企画委員リーダー)
 - ワークショップ(4グループ)
 - ワークショップの討議結果の発表
 - 講評
宮本 文穂(インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」メンター(山口大学名誉教授))
 - 閉会の挨拶
藤原 博明(国土交通省中国地方整備局企画部 事業調整官)



▲ 藤井堅フォーラムリーダーによる開会挨拶の様子



▲ グループ討議の様子



▲ 宮本文穂山口大学名誉教授による講評の様子

四国 地方フォーラム

インフラメンテナンス国民会議「四国地方フォーラム」は、四国地方4県の自治体および建設コンサルタントが主体となり、2017年12月26日に設立されました。自治体の課題に対し、民間企業が解決策となる技術を提案し、議論を深めて支援していきます。



リーダー ● 矢田部 龍一
愛媛大学防災情報研究センター 特命教授(愛媛大学名誉教授)

01

シンポジウム

愛媛大学が「i-Construction(アイ・コンストラクション)」に関するシンポジウムを開催し、その中のパネルディスカッションで維持管理分野におけるi-con等について四国メンテナンスエキスパートや国土交通省、愛媛県の動向等を紹介する報告がありました。

- 日時** 2020年1月17日(金) 14:00~17:15
- 場所** 愛媛大学南加記念ホール
- 参加者** 約180名(四国メンテナンスエキスパート、行政、大学、民間業者)
- プログラム**
 - 開会挨拶
 - 特別講演
 - 話題提供
 - パネルディスカッション
 - ・ 四国メンテナンスエキスパートの授与式
 - ・ 四国地整の維持管理分野のiConの取り組み事例
 - ・ メンテナンス国民会議の取り組み
 - ・ 四国内のメンテナンス講座等の取り組み 等



▲ パネルディスカッションの状況

九州フォーラム

インフラの維持管理の社会的問題を受けて、九州におけるインフラメンテナンスに関する自治体支援を行う「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」が2018年1月17日に設立されました。



リーダー ● 日野 伸一
大分工業高等専門学校 校長

第2回ピッチイベントinおおいた

ピッチイベントを九州全域への活動展開するための第一歩として、大分県内で収集したニーズに対してマッチング活動を行うことで、地域に根ざした活動を展開し、課題解決へ向けて討議しました。大分県内の各関係機関を集めて新たな実行委員会を組織し、県内の全自治体を訪問しニーズを収集した結果、多くの自治体に参加が得られました。



▲ パネルディスカッションの様子



▲ ピッチイベントの様子



▲ 基調講演の様子

01

日時

2019年7月30日(火) 13:30~17:20

場所

J:COMホルトホール大分302・303会議室

参加者

174名(国・地方自治体76名、民間企業等95名、学校関係者3名)

プログラム

- 基調講演
- ピッチイベント(ニーズ、シーズの紹介)
- パネルディスカッション

02

技術体験会

第1回ピッチイベントにてマッチングした技術について、長洲町、玉名市にフィールドを提供いただき技術体験会を実施しました。技術体験会では、長洲町は「スマホを活用した現場での効率的な情報取得i-MASTER」、玉名市は「非破壊による補修部との付着性能を評価する技術弾性波レーダーシステムiTECS法」を現場にて実証を行いました。実証後は、技術の活用へ向けて意見交換を行いました。



▲ 技術体験会(玉名市)の様子



▲ 技術体験会(長洲町)の様子

日時

2019年9月3日(火) 10:30~15:30

場所

長洲町役場、玉名市役所及び玉名市内現場

参加者

25名(地方自治体13名、民間企業8名、九州フォーラム4名)

プログラム

- 技術の概要説明
- 現場体験
- 意見交換

03

第3回ピッチイベント～ニーズとシーズ、マッチングの萌芽～

自治体のニーズと企業のシーズとのマッチングにより課題解決を図るピッチイベントを「九州建設技術フォーラム2019」と同時開催しました。ピッチイベントでは、九州地域の特性を考慮したテーマ(温度制御可能となる橋面の舗装技術、石橋の点検・診断及び補修技術)に加えて、インフラ施設管理に関する課題の具体化、共有化について討議しました。

日時

2019年10月9日(水) 13:00～16:30

場所

福岡国際会議場 409・411・412会議室

参加者

172名(国・地方自治体47名、民間企業等122名、学校関係者3名)

プログラム

- 基調講演
- ピッチイベント(ニーズ、シニア・テックグループ(仮称)の紹介)
- グループ討議
- 総括



▲ パネルディスカッションの様子



▲ ピッチイベントの様子



▲ 基調講演の様子

04

キッズリポーター体験～都市高速を守る仕事を追え～

市民参画推進の一環として、福岡県内の親子9組を迎えキッズリポーター体験を実施しました。当イベントでは、福岡北九州高速道路公社の協力のもと、小学生がリポーター、保護者がディレクターとなり、3箇所の現場(補修施工、点検、交通管制)に分かれ、リポーター体験を実施しました。参加者からは、「①見る、体験するだけでなく、レポートというアウトプットまで行うことが出来て良かった」、「②土木に対するイメージが良くなった」等の意見があり、土木やインフラ施設の維持管理に対する理解の向上を図ることができました。

日時

2019年11月17日(日) 10:00～17:00

場所

福岡北九州高速道路公社 本社

参加者

37名(親子18名、九州フォーラム13名、福北公社6名)

プログラム

- ガイダンス
- ロケーションハンティング
- シナリオ構成の打合せ
- 撮影
- 撮影後の打合せ



▲ イベント打合せの様子



▲ 現場レポートの様子

沖縄フォーラム

沖縄フォーラムは、2018年3月5日に準備会での議論のうえ、2018年3月22日に設立しました。自治体が抱えるインフラメンテナンスの課題を克服するために、産学官民が一丸となって解決に取り組んでまいります。



リーダー ● 有住 康則
琉球大学 名誉教授

令和元年度インフラメンテナンス国民会議 沖縄フォーラム技術相談会

「インフラメンテナンス国民会議沖縄フォーラム」は、自治体が抱える課題のうち「公共建築物の適切な維持補修の考え方」と「効率的な橋梁点検」と「道路植栽の効率的な維持管理」のテーマについて講演・実演し、行政(国、県、市町村)の職員、民間コンサルタント、学識経験者などが集い討議するイベントを開催しました。討議では、どのような維持管理が適正な方法なのかを議論し、現状把握と対策のヒントについて共有化を図りました。

01

日 時	2019年11月27日(水) 9:20~12:00
場 所	那覇第2地方合同庁舎2号館2階災害対策室
参 加 者	約69名(行政27名、民間40名、学識経験者2名)
プログラム	<p>■講演：実演</p> <p>①講演：「公共建築物の適切な維持補修の考え方」 実演：「ひびわれ注入、断面修復」</p> <p>②講演：「効率的な橋梁点検」 実演：「ひびわれの画像解析」</p> <p>③講演：「道路植栽の効率的な維持管理」 実演：「クラウド型在庫管理システム」</p> <p>■意見交換会</p> <p>【第1班】公共建築物と道路構造物の適切な維持管理の考え方 【第2班】道路植栽の効率的な維持管理</p>



▲ 行政職員、民間技術者を交えた討議の様子①



▲ 行政職員、民間技術者を交えた討議の様子②



▲ 各専門業者による講演及び実演の様子

インフラセンシングの実用化技術と近未来展望 ～Society5.0 の社会インフラへの戦略的展開～

市民及び技術者を対象とした講演会として、「インフラセンシング技術の最前線」をテーマに、老朽化するインフラ構造物を診断するモニタリング技術について、県内外の講師より講演を行って頂きました。講演の一つとして、沖縄の亜熱帯環境において、台風や海岸沿いの強風による道路橋照明柱の疲労亀裂・倒壊の可能性について、無線加速度センサを用いて疲労損傷度を推定する技術を紹介しました。また、機械学習の考え方を疲労検知に適用し検出の有用性を紹介しました。

02

日 時	2019年9月25日(水) 14:00~17:00
場 所	沖縄県立博物館・美術館(講堂)
参 加 者	136名(行政14名、民間技術者117名、学識経験者5名)
プログラム	<p>■講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「センシング技術を用いた構造物の損傷評価」 田井 政行(琉球大学助教) ・「鉄鋼構造物の磁気を用いた非破壊検査」 塚田 啓二(岡山大学教授) ・「人口減少社会におけるICT技術の活用」 菅沼 久忠(TTES代表取締役)



▲ センシング技術を用いた構造物の損傷評価についての講演



▲ 鉄鋼構造物の磁気を用いた非破壊検査についての講演

INFRASTRUCTURE MAINTENANCE PHOTO GALLERY





写真協力 山崎エリナ ● — 写真家

兵庫県神戸市出身・1995年渡仏。フランス・パリを拠点に3年間の写真活動に専念する。40カ国以上を旅して撮影。エッセイを執筆。帰国後、国内外で写真展を多数開催、雑誌、雑誌連載、広告、映像などで活躍。海外での評価も高く、ポーランドの美術館にて作品収蔵など幅広い活躍をしている。

